

施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 観光案内所の設置・運営	② 施策番号	3410
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 豊かな地域資源を有効に活かし、さまざまな人々が行き交う観光・交流のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 観光機能・体制の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	泉南市観光協会
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	観光協会の自立に向けた取組の一環として、観光案内所を本市のおもてなし拠点と位置付け、その運営を適切に支援していく。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	国では、観光立国の実現に向けて、観光庁が訪日外国人旅行者の目標を2020年度は4000万人、2030年度には6000万人と上方修正した目標を掲げており、今後、その実現に向けて地方と連携しつつ今まで以上に注力していく。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 泉南市における休日滞在人口 計算式	人	休日の滞在人口の増加に伴い、観光案内所を利用する人数と比例してにぎわいと交流が創出されると認識
② 計算式		
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 泉南市における休日滞在人口	人	目標値	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	地域経済分析システムを活用
		実績値	130,000	130,000	130,000	—	—	
		達成率	81.3%	81.3%	81.3%			
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H28実績	H29実績	H29見込	H28実績	H29実績	H30見込	総合評価	今後の方針	
1 観光振興事業	泉南市における休日滞在人口	人	130,000	130,000	—	15,581	24,388	22,248	A	ア	◎
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
計	1					15,581	24,388	22,248			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	JR和泉砂川駅周辺に観光案内所を設置し、来訪者の利便性を向上させることで、戦略的な観光振興を図り、地域全体の魅力向上へつなげる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	観光案内所の認知度が向上し、おもてなし拠点としての基本的な役割を担い始めている。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	観光案内所の運営は、観光協会会員が担っている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	国の観光立国に向けた取組に沿った事業を進めるため、本市観光協会が主体となり観光事業を展開していくべき。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	観光事業の実施主体は、市民(観光協会、事業者等)であり、とりわけ観光協会の自立に向けた取組は日本版DMOの機能の醸成に繋がる。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	B	おもてなし拠点として、より多くの誘客を目指すとともに多言語化を推進すべき。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	多言語表記や対応の検討。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	案内所の運営を安定させるため、自主事業を展開するとともに、一元化した観光窓口を担うことができる体制づくりを行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	観光案内所が本市のおもてなし拠点となるよう一元化した観光窓口を担う。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	観光協会による観光案内所の運営が適切に実施されている。 利用促進に向けた多言語表記やきめ細やかな対応といった来訪者の利便性の向上に向けた取組を引き続き進められたい。	